



ナマズの知恵袋

平成18(2006年)3月 1日 発行
編集・発行 滋賀県立図書館

ナマズ・うろこ雲・赤トンボ には、要注意？

これらは“地震の起こる前兆”として、昔からの多くの人の経験から言い伝えられた「ことわざ」の中に登場します。(『災害予知ことわざ辞典』大後美保編 東京堂出版 1985年 [2-3693-夕]より)

今、いつ起こってもおかしくないと言われる大地震、耐震が偽造された建物、頻発する子供への犯罪、BSE牛肉の問題などなど...、私たちの身の回りには、“危険”が一杯です。

「備えあれば憂いなし」。今こそ、大切な暮らしの中の安全について考えてみる必要があるのではないのでしょうか。こんなとき出番を待っている図書館の資料を、参考書を中心にご紹介します。

[]内は請求記号

(^_^;)
大地震
ホントに
起きるの？

まず現在、科学的な予測はどうなっているのか確認してみたいところです。そんなときは、『**全国を概観した地震動予測地図報告書**』全3冊 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2005年 [RB-4532-シ]で調べてみましょう。長期評価の結果に基づき、日本各地での将来の地震発生確率、主要78活断層帯での強振動予測といった予測情報を地図上にとりまとめています。自分の住む地域が大地震に見舞われる可能性はどのくらいか、どのくらいの揺れになるのかを知ることが出来ます。ちなみに琵琶湖西岸断層帯の50年発生率は、0.2%~20%。

詳しく滋賀県周辺の活断層を知りたい方は、大判の地図『**近畿の活断層**』東京大学出版会 2000年 [5B-4508-00]をご覧ください。地震現象全般も把握しておくなら、『**地震の事典**』第2版 朝倉書店 2001年 [R-4530-ウ] 地震の概観から予測・予知まで、専門外の人でも理解できるようまとめられています。

また記憶も鮮やかな阪神・淡路大震災では、既存の概念を超えた対応が求められたと言われます。『**地域防災データ総覧**』阪神・淡路大震災基礎データ編 消防科学総合センター 1997年 [R-5199-チ] は、膨大な資料の中から、震災対策の参考になるデータ

(M)~
過去の
大地震
から学ぶ

を、出典を明記してわかりやすく整理し作成されています。防災業務者向けでありながら地震発生時の「住民の行動」や「場所別被災者のニーズ」など、私たちが直面した場合に教訓となると思われる貴重な情報を収集できます。

『**地震防災の事典**』朝倉書店 2000年 [R-3693-オ] は、日本の地震被害軽減に向けて、総合的な観点から個々の項目を深く解説。ライフラインや、地震保険などにも及びます。索引が充実しているので、どの頁からも調べられ、「稲村の火」「震の字のつく地名」など興味深い36のコラムも挿入されています。

写真や図表を多用して分かりやすく編集された『**防災白書**』平成17年版 内閣府編 国立印刷局 2005年 [RB-3693-ホ]では、日本の災害と対策の推進状況について、国・地方・企業・地域・ボランティアまでの取り組み事例が紹介されており、今なすべき「備え」が、見えてくることでしょう。

『**防犯・防災関係データ集**』2005年版 生活情報センター[RB-3177-二] は、あらゆる最新データを“見て知りたい方”におすす。アンケート調査も豊富で、回りの人たちの意識や備えの現状がわかります。災害対策基本法に基づき改定を行ってきた、我が国の防災対策『**防災基本計画**』平成14年4月 内閣府編 財務省印刷局 [RB-3693-チ]と『**滋賀県地域防災計画**』震災対策編 滋賀県 2003年 [SB-CL00-03]も併せてご覧下さい。

(^.^)
対策は...
私たちに
出来ること

(^^)

建築のことを知りたい

『**建築・都市・住宅・土木情報アクセスブック**』 菊岡俱也編著 学芸出版社 1994年 [3-5203-キ] 関連機関、図書、雑誌等の調べ方や文献を紹介。

『**建築構造ポケットブック**』 第4版 建築構造ポケットブック編集委員会編 共立出版 2001年 [R-5240-ケ] 阪神・淡路大震災以降改正された建築基準法、同施工令、S I単位、耐震診断等について解説。度量衡、構造設計の算定方法、構造計算の手順なども載っています。

『**図解建築用語辞典**』 第2版 建築用語辞典編集委員会編 理工学社 2004年 [R-5203-ケ] 基本的な用語についてわかりやすい言葉で解説。名称の説明には用語の写真や絵も載せています。

『**建築構造用語事典**』 日本建築構造技術者協会関西支部建築構造用語事典編集委員会編著 建築技術 2004年 [R-5240-ニ] 3名の構造設計者が建築構造設計でよく使う108の用語を解説。1つの用語を3名それぞれが実体験を踏まえて説明しています。

『**建築の事典**』 沖塩荘一郎[ほか]編集 朝倉書店 1990年 [R-5203-オ] 建築に関する事柄も含め建築用語が網羅的に解説しています。例えば「耐震構造」を見ると、地震に関する説明も併記されています。

『**耐震・免震・制震のはなし**』 斉藤大樹著 日刊工業新聞社 2005年 [G-5249-サ] 地震に耐える建物にする方法「耐震構造」「免震構造」「制震構造」などの理論がわかります。

(^0_0^)

子供を守る手がかり

『**日本子ども資料年鑑**』 1988～ 母子愛育会日本子ども家庭総合研究所編 K T C中央出版 [R-3676-ニ] 年毎の特集と年表、項目毎の年間動向に子どもに関する調査・統計データをまとめたもの。詳細な目次・地域別索引・今年のキーワードなど調べやすく工夫されている。2006年版に「子どもの被害」の項目を増設。『**子育て・教育・子どもの暮らしのデータ集**』 2001～生活情報センター[R-3705-コ]は、広範に収録した大判で見やすいデータ集。

『**子ども白書**』 1972～ 日本子どもを守る会編 草土文化 [R-3694-コ] 各年毎の子どもの動向集大成。2005年版では、第2章「ことしの子ども最前線」に『ひろがる子どもの犯罪被害』が取り上げられました。

『**子どもの人権大辞典**』 エムティ出版 1997年 [R-3676-コ] 子どもの権利条約の理念を実現するため、約2000の見出し項目を幅広い知見から解説した総合索引付50音順の辞典です。巻末に子どもの人権関連文書有り。

『**図解子ども事典**』 谷田貝公昭責任編集 一藝社 2004年 [R-3714-ヤ] 子どもの世界を生活・文化・環境・福祉、教育の5つの分野に分け、図や表で視覚化して、説明を加えたもの。中国・韓国の事例も収載。

『**幼い子どもを犯罪から守る!**』 岡本拓子・桐生正幸編著 北大路書房 2006年 [G-3676-オ] 『**犯罪から子どもを守る50の方法**』 国崎信江著 ブロンズ新社 2005年 [G-3686-ク]、『**子どもを守る学校の危機管理ガイドライン**』 大泉光一著 教育開発研究所 2004年 [G-3740-オ]は、家庭が、学校が、地域が、ボランティアが、行政が子供を犯罪から守るための実践的マニュアル。今すぐ実行!

!(^^)!

みんなで守る食の安全

『**食の安全性**』 日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2001年 [R-4985-ニ] 食品の安全性に関する図書や雑誌を収録した文献目録です。

『**総合食品安全事典**』 総合食品安全事典編集委員会編集 産業調査会 1994年 [R-4985-ソ] 原料生産や食品加工で用いられる化学物質などについて解説しています。

『**滋賀県食の安全・安心アクションプラン**』 滋賀県県民文化生活部生活衛生課食の安全推進室[編] 滋賀県 2004年 [SB-CR00-04] 滋賀県が県民の健康保護のために行っている食の安全への取り組みを紹介。最近話題の用語解説や関連施設のURLも載っています。

『**食品衛生化学物質事典**』 細貝祐太郎[ほか]編 中央法規出版 2000年 [R-4985-ホ] 農薬、動物用医薬品、自然毒、発ガン物質などの化学物質約1600点が載っています。構造式や分子式、性状や毒性も併記。

『**食の安全と安心の経済学**』 中嶋康博著 コープ出版 2004年 [G-4985-ナ] 東京大学院助教授の著者が食の安全に関する問題点とその対策について述べています。

ご紹介した資料以外にも暮らしの安全に役立つ資料を所蔵しています

インターネットからも調べられます

「今年も滋賀は減災元年」と知事が宣言。災害に強い県を目指す『**滋賀県防災ホームページ**』 (<http://www.shiga-bousai.jp/>)や、防災を管轄する内閣府のホームページは、お役立ち最新情報が満載です。必見!